

テーマ：長時間労働のメリット・デメリットとその対策の提案

出題の意図

本問題の目的は、本学部への編入学希望者に対して、「長時間労働を減らすための具体的な取り組み」を多角的・説得的・論理的に提案させることである。本学部では、社会環境・自然環境の実態を的確に把握し、複数の事実を観察・収集・整理するなかで、事実内に内在する問題を見つけて、多角的な視点で問題の解決策を提案できる思考力をもつ者を求めている。そこで、本問題では、社会環境問題の典型例である「長時間労働を題材とした資料」を用いて、健康に対する長時間労働の影響、労働時間の推移、職場満足度、労働時間の短縮の問題点、長時間労働に関する是正策の提案、の順序で設問を設計した。個々の設問では、和文・英文の読解力、文章作成能力、数学的思考を尋ねている。以上の設問に一つずつ段階的に解答することを通じて、現状の社会問題に対する理解を深めると同時に、改善案を提示させるのが、本問題の意図である。

第1問では、長時間労働が健康に及ぼす影響について、レビュー論文を読ませて、長時間労働の定義・働き方のタイプを踏まえた上での長時間労働の問題点を認識させた。【AP1 読解力・文章作成能力】

第2問では、日本における労働時間の推移および職場満足度（ともに、就労形態別）を読み取らせることで、「一般労働者の方が、労働時間・休日等の労働条件の満足度が低いにもかかわらず、労働時間が変化していない（長時間労働のまま）」という現状を自覚させた。【AP1 文章作成能力, 基礎的な数学的思考能力】

第3問では、長時間労働に対する対策の1つである「労働時間の短縮（時短）」の問題点を紹介した記事を読ませて、長時間労働の是正には、仕事内容・賃金体系・モチベーションを勘案する必要性を認識させた。【AP1 読解力, AP2 社会への関心, AP3 他者の考えの理解】

第4問では、上記の3問分（健康に対する長時間労働の影響、労働時間の推移、職場満足度、時短の問題点）への解答、および長時間労働の是正策が記された資料(D)の読解を踏まえて、長時間労働を減らすための政策を提案させた。【AP1 文章作成能力, AP2 問題の発見と解決への思考, AP3 自分の考えの表現】

解答例

設問	解答例	採点基準
1	問1 ア 日本の厚生労働省が公表したデータによると、労働によって循環器疾患・脳血管疾患・精神障害に罹患した労働者の数は、最近10年間で、約3倍も増加している。(73字)	以下の3点が存在する場合には各減点。①According to の誤訳。②due to の誤訳。③理解可能な邦文ではない。
	問1 ウ 長時間労働と健康との間の関連を検討する研究の中には、標準労働時間の定義が各国で異なるために、長時間労働の定義に影響する可能性がある。(66字)	以下の3点が存在する場合には各減点。①The difference の意味を「各国で標準労働時間の定義が異なる」ことと捉えていない。②標準労働時間の定義が長時間労働の定義を変えうる点。③理解可能な邦文ではない。
	問2 労働時間が長いほど、病気になりやすかったり、病気になりやすかったり、全く関連がなかったりする。 (49字)	controversial が、前文の positive, negative, or no association のことだと理解できれば良い。
2	問1 ・一般労働者：1.00 倍 ・パートタイム労働者：0.93 倍	除算 $2026 / 2032 = 0.997\dots$ 除算 $1033 / 1110 = 0.929\dots$
	問2 「雇用の安定性」では、一般労働者の方が 34.9% ポイントも満足している者が多い一方で、「労働時間・休日等の労働条件」では、パートタイム労働者の方が 9.7%ポイントも満足している者が多い。他方、「仕事の内容・やりがい」では、両者の間には、ほとんど差が見られない。(124字)	100～130 字。採点基準は、以下の2点。①一般労働者とパートタイム労働者を比較しているか。②顕著な差が存在する場合には、差のポイントも指摘しているか。
3	問1 残業をしないと仕事が終わらず、仕事が終わらないと顧客に迷惑がかかり、人員を増やさないと仕事はたまる一方である。また、一部の仕事では、仕事に対する動機が低下したり、仕事が非効率化したり、画期的なアイデアが生まれにくくなる。(111字)	100 字～120 字。模範解答例の左記 6 点（仕事終わらず、顧客に迷惑、仕事がたまる、動機低下、非効率化、アイデア生まれにくい）が全て盛り込まれていれば満点。6 点のうち、1 つ欠けると減点。
	問2 仕事をこっそり家に持ち帰り「隠れ残業」をするか、早朝勤務をする。(31字)	31 or 35 字。「従業員は」という主語を入れても OK。

設問	解答例	採点基準
4	<p>雇用主と労働者の双方から合意を得るための長時間労働の是正策には、以下のような取り組みを、全社員で行う必要があると、私は考える。まず、全社員（雇用主も労働者も）が、現状の仕事を終えるために必要な年間総労働時間、仕事の分業体制、仕事の成果について、自己分析を行う。この過程で、基幹業務と周辺業務の労働時間を明確にし、周辺業務をマニュアル化することで、仕事を早期に完了した労働者にインセンティブ付きで任せる仕組みを作る。次に、自己分析の結果に基づいて、全社員が、仕事の分業体制（個人プレー・チームワークの程度、裁量性の程度）に応じて、無理のない範囲で労働時間の短縮目標と、プラスαの成果目標を設定する。プラスαの成果目標を導入することで、従来と同じ労働時間でより高い成果を挙げた場合も報酬対象に含まれるため、モチベーションの低下や仕事の非効率化を避けられる。もちろん、プラスαの成果目標には、他人の周辺業務を手伝った功績も含まれる。これらの目標を達成した程度に応じて、従来支払っていた残業代や余剰利益を追加報酬やリフレッシュ休暇へと充当可能な制度を構築する。この制度を機能させるために、まずは、雇用主や管理職が模範を示すような働き方を実践し、それに労働者も付随するような働き方改革の流れを作ることが重要である。（552字）</p>	<p>550～600字。資料(D)の是正策5点を駆使して、資料(C)の問題点をいかに克服するかに関する具体案が明示されていれば良い。</p> <p>採点基準としては、以下の3点が存在する場合には各減点。①是正策とは異なる内容が書かれてある（設問に答えていない）。②解決方法が奇抜・抽象的・非現実的すぎる（妄想、前提が多い、理念、意気込み）。③理解可能な邦文ではない。</p> <p>反対に、資料(D)の是正策を用いて、資料(C)の問題解決を試みている（本文の指示「資料(C)(D)の適切な活用」）場合に、高得点となる。</p>